角の定性的な関係にも触れること。また，白色光はプリズムなどによっていろいろな色の光に分かれることにも触れること。

イ　アの(ｱ)の㋑については，物体の位置に対する像の位置や像の大きさの定性的な関係を調べること。その際，実像と虚像を扱うこと。

ウ　アの(ｱ)の㋒については，音の伝わる速さについて，空気中を伝わるおよその速さにも触れること。

エ　アの(ｲ)の㋐については，ばねに加える力の大きさとばねの伸びとの関係も扱うこと。また，重さと質量との違いにも触れること。力の単位としては「ニュートン」を用いること。

(4)　内容の(2)については，次のとおり取り扱うものとする。

ア　アの(ｱ)の㋐については，有機物と無機物との違いや金属と非金属との違いを扱うこと。

イ　アの(ｱ)の㋑については，異なる方法を用いても同一の気体が得られることにも触れること。

ウ　アの(ｲ)の㋒については，粒子のモデルと関連付けて扱い，質量パーセント濃度にも触れること。また，「溶解度」については，溶解度曲線にも触れること。

エ　アの(ｳ)の㋐については，粒子のモデルと関連付けて扱うこと。その際，粒子の運動にも触れること。

(5)　内容の(3)については，次のとおり取り扱うものとする。

ア　アの(ｱ)の㋐の「回路」については，直列及び並列の回路を取り上げ，それぞれについて二つの抵抗のつなぎ方を中心に扱うこと。

イ　アの(ｱ)の㋑の「電気抵抗」については，物質の種類によって抵抗の値が異なることを扱うこと。また，二つの抵抗をつなぐ場合の合成抵抗にも触れること。

ウ　アの(ｱ)の㋒については，電力量も扱うこと。その際，熱量にも触れること。

エ　アの(ｱ)の㋓については，電流が電子の流れに関係していることを扱うこと。また，真空放電と関連付けながら放射線の性質と利用にも触れること。

オ　アの(ｲ)の㋑については，電流の向きや磁界の向きを変えたときに力の向きが変わることを扱うこと。

カ　アの(ｲ)の㋒については，コイルや磁石を動かす向きを変えたときに電流の向きが変わることを扱うこと。

(6)　内容の(4)については，次のとおり取り扱うものとする。

ア　アの(ｱ)の㋑の「物質を構成する原子の種類」を元素ということにも触れること。また，「記号」については，元素記号で表されることにも触れ，基礎的なものを取り上げること。その際，周期表を用いて多くの種類が存在することにも触れること。

イ　アの(ｲ)の㋐の「化学式」及び「化学反応式」については，簡単なものを扱うこと。

ウ　アの(ｲ)の㋑の「酸化や還元」については，簡単なものを扱うこと。

(7)　内容の(5)については，次のとおり取り扱うものとする。

ア　アの(ｱ)の㋐については，水中にある物体には，あらゆる向きから圧力が働くことにも触れること。また，物体に働く水圧と浮力との定性的な関係にも触れること。

イ　アの(ｲ)の㋐については，物体に力が働くとき反対向きにも力が働くことにも触れること。

ウ　アの(ｲ)の㋑の「力が働く運動」のうち，落下運動については斜面に沿った運動を中心に扱うこと。その際，斜面の角度が90度になったときに自由落下になることにも触れること。「物体の速さが変わること」については，定性的に扱うこと。

エ　アの(ｳ)の㋐については，仕事の原理にも触れること。

オ　アの(ｳ)の㋑については，摩擦にも触れること。

(8)　内容の(6)については，次のとおり取り扱うものとする。

ア　アの(ｱ)の㋐の「原子の成り立ち」については，原子が電子と原子核からできていることを扱うこと。その際，原子核が陽子と中性子でできていることや，同じ元素でも中性子の数が異なる原子があることにも触れること。また，「イオン」については，化学式で表されることにも触れること。